

新潟市水族館の管理に関する基本協定に係る

令和2年度 業務報告書

1. 入館状況について

令和2年度総入館者数 364,392人(対前年度比 71.5%)

[総括]

指定管理者として5年間の指定管理期間のうち、2年目の管理運営を行った。充実した施設を活用し、豊富な経験・知識・技術を持った職員による適切な管理運営に心掛け、お客様サービスを第一に努めた。

今年度は新型コロナウイルス感染症拡大の影響により今まで経験したことがない1年となった。昨年度2月29日に新潟市で初めて感染者が確認されて以降入館者数が激減し、今年度に入ってから感染拡大は収まらず、水族館の管理運営に大きな影響を与えた。特に今年度は開館から30周年を迎え、様々な記念事業を計画し、多くの方々に新潟市水族館の30年を見ていただきたかったが、中止や変更など大きな見直しを余儀なくされた。また、集客が見込めるゴールデンウィークでは、前後の20日間に臨時休館を行うなど、リニューアル工事の年を除けば過去最も少ない入館者数となった。感染症対策を行いながら開館を続け、最終的には364,392人対前年度比71.5%と昨年度を大きく下回った。また、「公の施設目標管理型評価書」の評価指標である入館者数510,000人以上を維持することも出来なかった。

入館者数を月別で見ると、4月は市内学校の臨時休校措置が3月2日から行われたため子供の来館者はほとんど見られなかった。平日では入館者数が100人に満たない日も多く、週末も前年度比10～20%と激減した。さらに、4月16日には全国緊急事態宣言が発出されたことを受け、4月21日からリニューアル工事以外では初めて臨時休館となった。開館した4月20日までの前年度比は18.3%であった。5月に入っても臨時休館は続き、集客が見込めるゴールデンウィーク期間全てを休館した。その後、新潟市の方針に従い、5月11日に開館を再開したが、入館者数はすぐに戻らず、また遠足による幼稚園・保育園の団体はほぼ皆無であった。5月25日には全国の緊急事態宣言が解除されたが、ゴールデンウィークの臨時休館が大きく影響し、前年度比22.0%であった。6月に入ると新潟市内で新規感染者が確認される日も少なくなり、また県をまたぐ移動などの自粛要請が緩和されたことにより、館内での解説プログラムを平日のみ再開した。徐々に入館者数も回復し、最後の週末は2日間とも前年度を上回った。最終的に6月は71.0%まで回復した。7月に入っても新潟市内での新規感染者の確認される日は少なく、平日では前年度比60～70%まで回復した。また、開催が延期された東京オリンピック・パラリンピック競技大会特別措置法等の規定に基づき、海の日・スポーツの日が移動され7月23日から4連休となったこともあり、7月は前年度比78.4%となり、6月からさらに回復した。8月は全国的な感染再拡大(第2波)が7月末頃にピークとなったことから、前年度比の減少幅が少しずつ広がり始めた。集客を見込めるお盆期間も全国的に外出自粛要請が出されていたため、オープン以来最少の入館者数となった。8月4日に生まれたカマイルカを25日に親子一般公開したものの、8月の入館者数は前年度比57.0%となった。9月は新規感染者数が減少し入館者数も回復に向かった。また、今年は下旬に大型連休(4連休)となったことから、前年度比95.8%まで回復した。上半期終了時点で前年度比55.9%と昨年度の半数以上まで回復した。10月は1日から観光需要を支援するためのGotoトラベル地域共通クーポンの取扱いが開始された。当館では、先行してレストラン・売店で取り扱いを開始したため、これを利用した多くのお客様が来館された。特に県内の学校を中心に修学旅行の団体が非常に多く来館され、多くの学生がこの地域共通クーポン券

を利用し売店で買物をされた。11月24日からは入館料でも取り扱いを開始し、一部の来館者が利用された。Gotoトラベル地域共通クーポン効果により10月は対前年度比94.0%であったが、11月もGotoトラベル地域共通クーポン効果が続き、対前年度比118.4%と今年度初めて昨年度を上回った。12月は新潟市内の新規感染者が連日確認され、また17日には新潟県から「警報」が発令されたことから、対前年度比97.0%と再び昨年度を下回った。1月は昨年度に引き続き、冬場の集客対策として、年間パスポート購入者へ館内のレストラン・ショップで使用できるクーポン券をプレゼントする「年パスキャンペーン」や成人の日企画「新成人及びその同行者の入館料免除」を実施し入館者促進を図った。しかし、新規感染者が再び拡大(第3波)、12月29日からGotoトラベル地域共通クーポンの取扱い一時中止、さらに新潟市中央区で8年ぶりに80cmの積雪を観測したため、1月の対前年度比は52.2%と半数程度となった。2・3月は新型コロナウイルスの影響が続いたものの、比較的天候に恵まれ例年の8割程度まで回復した。

依然として新型コロナウイルス感染症拡大の影響が続き、いつ収束するか全く予測がつかない状況であるが、開館を続けている間は、指定管理者として管理運営をしっかりと行っていきたい。このような状況下でも来館していただいているお客様のため、安心・安全に観覧していただけるよう努めていきたい。

パスポート購入者は、新型コロナウイルス感染症拡大の影響があったものの、昨年度の13,905人から423人減少し、13,482人のお客様に購入していただいた。コロナ禍で県をまたぐ移動が難しい中、新潟市内の方が近くの施設を訪れ、パスポートを購入していただいた結果だと思われる。昨年度並みに購入していただいたことは、新潟市の施設を管理する者として大変喜ばしいことである。コロナ禍ではあったが例年どおり、年間パスポートの宣伝や、購入者へ館内のレストラン・ショップで使用できるクーポン券をプレゼントする「年パスキャンペーン」、館内出口付近に当日の入館券に追加料金をプラスすることで年間パスポートに切替ができるというポスター掲示やチラシの設置を継続して行い、多くのお客様から年間パスポートへの切替をしていただいた。パスポート所持者の平均年間来館回数が1人あたり5.8回であることから、パスポート購入者の増が入館者数の増に結びつくものと今後も期待できる。

申請や手帳による減免での入館者も新型コロナウイルス感染拡大の影響により、「身障者等手帳(対前年度比63.8%)」「老人施設(対前年度比9.0%)」「小・中学校(対前年度比83.3%)」「保育園・幼稚園等(対前年度比44.7%)」全てで前年度を下回った。減免利用者総入館者数は、12,940人と総入館者に占める減免利用者の割合は3.6%となっており、コロナ禍であっても当館の果たすべき社会的役割は依然として大きいと考えている。

毎月実施していたアンケート調査は、新型コロナウイルス感染拡大の影響で今年度は6月からの調査となった。また、感染防止のため従来の対面式から、出口付近に調査用紙を設置し無人で行った。展示生物に対する満足度が95.9%を確保しており、「大変満足した」「これからもまた来たい」「日本海の魚たちの展示が良かった」「水槽がきれいで見やすかった」「何度来ても楽しい水族館です」「水槽がとてもクリアで見やすかったです」などの感想が寄せられている。また、「遊べるコーナー(遊具)もありがたかったです」「ソーシャルディスタンス 人の配慮もしっかりされておりとてもよかったです」「駐車場が無料なのが大変良かった」と展示生物以外でも好意的な声が寄せられている。

今後も、常におもてなしの心を持ち、十分な感染対策を続けながら「来てよかった、また来たい」と感じてもらえるようなサービス提供を心掛け、新たなお客様の獲得とリピーターの確保に努めたい。

2. 施設の管理運営状況について

(1) 臨時開館・閉館及び開館時間の変更

[総括]

臨時開館・閉館及び開館時間の変更については、新潟市水族館条例に基づき適切に実施した。

例年行っている繁忙期における開館時間の繰り上げ・延長は、今年度については、新型コロナウイルス感染症拡大防止対策もあり、来館者の密を避けることを考慮し実施した。市民サービスの提供と感染症拡大防止対策という目的を十分に果たしたのではないかと考えている。

例年実施しているゴールデンウィークの開館時間の繰り上げは、臨時休館により実施しなかった。

次に来館者数が増え始めた7月18日(土)・19日(日)・8月1日(土)・2日(日)・8日(土)・9日(日)の週末、開催が延期された東京オリンピック・パラリンピック競技大会特別措置法等の規定に基づいた7月23日(木・祝)～26日(日)の4連休、8月10日(月)～16日(日)のお盆期間で開館時間の60分繰り上げを実施した。入館者が増加し、来館者が密となるため、入館者の時間帯ごとの平準化や、周辺道路の混雑緩和に有効であったと思われる。感染状況やお客様の入館動向を把握し、適切な開館時間の繰り上げ・延長を実施し、市民サービス、感染対策のため目的を十分達成した。

例年1月2日・3日は、市民サービスのため臨時開館を実施している。みなとトンネルからの人の流れも多く、マリニピア日本海の周辺道路は、護国神社の初詣客で、三が日は朝早い時間から混み合うが、今年度は、新型コロナウイルス感染症拡大の影響で初詣客が少なかった。ただし、正月開館は定着しているため今後も実施していきたい。

電気事業法第42条に基づく電気設備法定点検を3月4日・5日で実施した。従来からの休館日は「12月29日から1月1日」と「電気事業法に基づく電気設備法定点検実施のため3月の第1木曜日とその翌日」しかなく、今後も工事スケジュールを組むことが困難となる場合がある。

今後も開館時間の変更については、感染状況及びお客様の入館動向を把握し、適切に開館時間の繰り上げ又は延長を実施し、費用対効果を図りながら市民サービス、感染対策に努めていくことが必要である。

(2) 展示生物について

[総括]

協定書の仕様書に謳われている約500種、20,000点の魚類、海獣その他水生生物の飼育展示規模を維持するとともに、展示内容の魅力の向上に努めた。

新型コロナウイルス感染症拡大による県外への移動制限等で生物交換や採集活動に制約を受けたが、魚類輸送専用車両を計画的に運用し、展示コンセプトに沿った沿岸性魚類や深海性魚類、温帯・亜熱帯性魚類等を搬入した。

飼育困難生物への飼育展示にも積極的に取り組んだ。他園館の協力を受けて、昨年度より日本海大水槽に導入したスマは良好な展示状態を維持している。リニューアル後は初となるアオリイカの展示も再開した。新潟県内各地の漁業協同組合の協力により、特に深海性生物の収集、展示に努めた。アバチャン、トクビレ、ガンコ、ナガヅカ、コンペイトウ等の魚類の他、オキノテヅルモツルや日本海固有種である両津湾産サラサベッコウタマガイを展示した。採集困難種であるニホンキサンゴを水中カメラロボットのマニピュレーターを使い採集し、展示した。

国内希少種に指定されているコシノハゼを生息地の把握と生態の解明、啓発等を目的に環境省より許可を得て全国で初めて展示した。

また、飼育下で繁殖した生物を積極的に展示した。アカムツ(通称＝バドグロ)は人工育成技術開発を継続し、育成個体を「#18」水槽に群れで常設展示している。ホトケドジョウ、シナイモツゴ、キタノアカヒレタビラ、キタノメダカを「信濃川水槽」に、クラゲ類、コウイカ、クロベンケイガニ、アカテガニ、シロボシアカモエビ、アカハライモリ、ホトケドジョウ、シナイモツゴ、を「育成室」に展示した。タツノオトシゴは親個体から第3世代となる育成個体を「アマモ場水槽」に展示している。8月には、昨年に続き当館2例目となるカマイルカの繁殖に成功し、現在も母子ともに良好な状態を維持している。また、フンボルトペンギンは3個体が完全成育している。

昨年度から雄がいない状態となっていたトドは、12月に三重県の伊勢夫婦岩ふれあい水族館から雄を搬入した。バイカルアザラシは、平成2年の開館時から飼育していた雄が9月に死亡し、12月に大分県の大分マリンパレスから雄を搬入した。トド、バイカルアザラシとも既存の雌との血縁関係のない雄が搬入されたことで今後の繁殖が期待できる。また、ラッコを飼育していた展示水槽はウミガラス飼育用の改修工事が完了し、東京都の葛西臨海水族園から5羽を搬入した。

「にいがたフィールド」で「にいがたフィールドガイド」を4回実施し、季節ごとの観察ポイントや自然繁殖したシナイモツゴ、キタノメダカなどの紹介を行った。

今後とも、開館以来の管理運営により蓄積してきた豊富な知見に基づき、創意工夫を重ね、展示生物の充実や、入館者に対する正確かつタイムリーな情報提供に努めていきたい。また、常に新鮮味のある展示を心掛け、リピーターにも十分満足してもらえるような魅力あふれる展示を行っていきたい。

(3) 通年事業の実施状況について

[総括]

① ペンギン解説(新型コロナウイルス感染症拡大防止対策のため、通年ペンギン海岸で実施)

ペンギン散歩道(夏期はペンギン海岸)でペンギンが歩く様子等を見ながら、分類や生態、生息地の環境、フンボルトペンギンが絶滅に瀕している背景、水族館における域外保全活動・繁殖の実施等について解説している。実施場所は屋外観覧導線に面しており、およそ10分の解説時間の中で気軽に立ち寄って解説を聞き、満足すると立ち去る来館者も多く、実施規模の割に参加人数の多いイベントとなっている。

② イルカショー

時刻を定めて解説を行う行動展示で、高い展示・教育効果が期待される。

水生哺乳類の自然史や環境との関わり、飼育下の健康管理、トレーニングなどを解説し、来館者の水生野生生物への理解を促し、環境保全への関心を高めてもらうことに目的を置いている。

ハンドウイルカ2-3頭、カマイルカ1-4頭を用いて1日に4-5回行っているが、今年度は新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、来館者のショーへの参加は取りやめ、また普段よりも短い1回10-15分の構成とした。内容は短いながらもイルカの種類、体の特徴、認知、行動能力などを解説し、楽しみながら自然に学べるショーを心がけた。また密集を避けるため、ドルフィンスタジアムのシートには間隔を空けた着席を促すサインを貼り、ショー前には観覧者の協力を呼びかけるアナウンスを追加した。イルカに関する疑問が解消できるようショー後に設けている質問受付は、ビニルフェンス越しに

実施した。

カマイルカの出産に伴い 8 月 3 日から 16 日の期間中止とした。また冬季のイルカショーは悪天候の際のみ屋内プールでの開催とした。屋内ショーの内容は母仔の解説とし、直後にドルフィンスタジアムでジャンプなどを含めたトレーニングをセットとして行った。これにより母仔の安全を確保しつつ体の解説や仔の成長を伝えることができ、かつジャンプが見たいという来館者の欲求を満たし満足感を得られたと考えている。

毎月実施しているアンケート調査では、概ね高評価をいただいている。

③ マリンサファリ給餌解説

ドを用いて 1 日 2 回、形態や生態、野生の状況、人との関わり等についての解説を実施した。昨年 8 月にオスのドが老衰で死亡してからは、小型のメス 2 頭に給餌しながら解説していたが、今年 12 月 4 日に伊勢シーパラダイスからドのオス 1 頭を購入し、3 頭での給餌解説再開を目指してトレーニング中である。現在は 4 歳の未成獣で小型であるため、体重 1 トンの成獣となった時の展示効果を期待している。

④ ひれあし類解説

午前のマリンサファリ給餌解説終了後、マリンサファリ内でゴマフアザラシとカリフォルニアアシカに餌を与えながら解説した。アザラシ科とアシカ科の形態の違いなど、ドの解説では伝えることができない鰭脚類の分類を中心に解説を行っている。

⑤ 日本海大水槽解説

水生生物や海洋環境に関する知識の普及を目的に、日本海大水槽前で飼育員が解説を行った。展示生物の紹介から水族館のしくみまで多角的な情報を伝えるプログラムとして取り組んでいる。今年度は、新潟県に生息している魚の紹介にも力を入れ、新規にスズメダイとメバルの解説を取り入れた。海洋生物について理解を深めてもらう良い機会であったと実感している。

⑥ 磯の生き物解説

磯の体験水槽で、生物を 1 日 1 回、解説を交えながら近くで観察してもらう構成としている。例年、職員と参加者の距離を近づけて実施してきたが、今年度は新型コロナウイルス感染症拡大を考慮して、ブース内からの解説に重点を置いた。多客時はマイクを使用し、参加者に声が届くように努めた。棘皮動物を様々な角度から撮影した解説パネルを使用し、体のつくりなどが分かりやすく伝えられる工夫をすることで、多くの来館者に興味を持って生物に接してもらえよう心掛けた。来館者と直接対話するプログラム構成は、生物の扱い方や生息環境への理解を深めるのに有効であると実感している。

⑦ アクアラボ体験

アクアラボで水生生物に対する知識と理解を深めることを目的に、顕微鏡・カメラ・大型液晶モニターを用いて、観察や解説を行った。参加者の年齢に合わせて季節感を考慮した日替わりのテーマに沿って実施し、たいへん好評であった。今年度は、新たに 9 タイトルを追加して実施し、水生生物の知識普及に積極的に務めた。なお、密集を避けるため、定員は例年より減らして実施した。

(4) 生物展示関係イベント等の実施状況について

[総括]

平成2年のオープンから 30 周年に当たる今年度は、例年実施している参加型イベント等に代わり、30周年記念のイベントを数多く計画し、早くから準備を進めてきた。しかしながら、新型コロナウイルス感染症拡大により、計画したイベントの一部は開催期間の変更や中止、規模の縮小等を余儀なくされた。

一方、企画展については、通常は年間3-4回、テーマを変えて開催しているが、本年度は30周年の年表展示を企画展のベースとして、令和3年5月9日まで1年以上のロングランで行い、その期間内に同じ会場で30周年に関連した企画展示を、内容を変えながら4期に分けて開催した。

① 講演会「きいて・さわって・たべてみよう！」

4月から12月の間に計7回、外部の研究者による講演会を行い、講演テーマに沿った生物に参加者が実際に触れて、食べてみるという、これまでにない形の体験型イベントの計画であったが、新型コロナウイルス感染症拡大の影響で中止した。

② 特別講演会「今までの水族館・これからの水族館」

3名程度の講師を招いて、開館から30年間の出来事や変化、今後の展望などについて講演してもらう計画であったが、新型コロナウイルス感染症拡大の影響で中止した。実施予定日は8月8日であった。

③ 企画展示「マリンピア日本海30年のあゆみ 年表」

企画展示室内の壁面にパネルを設け、平成2年のオープンから30年間のマリンピア日本海の歴史を年表形式で紹介した。パネルには、年表で紹介されている生物を生体展示した小型水槽と動画モニターも設け、観覧者により興味をもってもらえるように工夫した。

当初計画した開催期間は4月1日～2月13日であったが、12月25日から開催予定となっていたフォトコンテストが新型コロナウイルス感染症拡大の影響で中止されたため、期間を翌年の5月9日まで延長した。

④ 企画展示「マリンピア日本海30年のあゆみ 魚とイルカの運び方」

水族館での生物の輸送に焦点を当て、輸送の方法や輸送のための技術について紹介した。会期は4月1日～5月24日の予定であったが、7月27日まで延長した。

生物を安全に輸送するために行った道具の改良や、活魚輸送車の導入によって輸送できる生物種が増えたことなどをパネルで紹介した。旧型活魚輸送車と新型活魚輸送車の1/4スケール段ボール模型を設置し、輸送装置の進化を分かりやすく比較できる展示も行った。生物の収集活動を紹介することで、水族館の行っている活動に関心を持つ良い機会となったと考える。

イルカについては「イルカが初めてやってきた日」と題し、普段目にする事のないイルカの輸送に関して、輸送の準備から道具・ルート・移動中や到着後の管理などをパネルや輸送装置の実物などを用いて紹介した。輸送装置内にハンドウイルカ等身大模型を配置したことで、イルカの体サイズなどがより感じられ注目を集めたと感じた。加えて、輸送実績が少ない当館としても、機材や方法等を見直す機会となった。入館者の約7割が本企画展を観覧していることから、関心は高かったと思われる。

⑤ 企画展示「マリンピア日本海30年のあゆみ ラッコとペンギンの 30 年」

開館から 30 年間のラッコとペンギンの飼育展示を紹介した。会期は 6 月 1 日～7 月 12 日の予定であったが、8 月 1 日～1 月 3 日に変更した。

当館でのラッコ飼育の歴史や工夫、ペンギンの個体群管理などについて、解説パネルや模型などで紹介し、当館における水生哺乳類の飼育展示について知っていただく機会になったと考える。また、普段は展示していないラッコの剥製を展示し、触ることはできなかったが、大きさや毛皮の質感などを体感していただけたと思う。

⑥ 企画展示「マリンピア日本海30年のあゆみ バイカルアザラシとカマイルカの誕生秘話」

当館の繁殖の取り組みを 2 例紹介した。会期は 7 月 18 日～9 月 27 日の予定であったが、11 月 7 日～1 月 24 日に変更した。

バイカルアザラシは当館の繁殖が飼育下初であるが、親が育児放棄をしたため、人工哺育の前例があるゴマフアザラシを参考にしながらも、手探りで工夫しながら育てた様子を感じていただけたと思う。カマイルカは、計画当初は当館として初めて繁殖した令和 1 年の出産をテーマに考案していたが、会期が遅れたのと令和 2 年の出産も順調に成功していたため、両方を合わせて紹介した。内容は、出産前の出来事として胎児のエコー画像、トレーニング、準備物、施設の改修などの紹介。また出産直前からは令和 1 年と令和 2 年を分け、出産の様子や親個体と誕生個体の成長の差がわかるように、上下段に分けた時系列のパネル構成とした。また一般公開前であり、直接見ていただけなかった誕生時の仔サイズがわかるように等身大模型を設置し、現在の仔イルカと比較することでその成長を伝えた。カマイルカが 2 年連続して無事繁殖することは少なく、成長の比較ができる良い機会となった。また今後の成長にも目を向けていただけるような展示であったと思われる。

⑦ 企画展示「マリンピア日本海30年のあゆみ 復活！ ガラ・ルファ！ アカムツ展示への挑戦」

「復活！ ガラ・ルファ！」では、2007 年から 2012 年まで展示し人気のあったガラ・ルファを、期間限定で展示した。ガラ・ルファは西アジアに分布する淡水魚で、人の皮膚をついばむ行動を体験できることで人気がある。今回、生体を 1m 四方のスクエア水槽に展示し、上部から手を入れてついで行動を体験できるようにした。パネルでは形態や観察のポイントなどを解説し、楽しいだけの体験にならないように工夫した。楽しみながら学べる機会を提供できたと考えている。

「アカムツ展示への挑戦」では、生体展示までの 10 年間の取り組みを、生体、パネル、映像を用いて紹介した。生体はアクリル水槽 1 台を設置し、当館で育成した 1 歳魚を紹介した。映像は、人工育成の様子や ROV 調査によって国内で初めて撮影に成功したアカムツの様子などを紹介した。アカムツの生体展示が成功するまでの採集から育成までの取り組み、生態を知るためのフィールド調査、他機関との共同研究などを詳細に伝えることができ、マリンピア日本海の活動を理解してもらい良い機会となった。

会期は 10 月 9 日～12 月 27 日の予定であったが、2 月 20 日～5 月 9 日に変更した。

⑧ 参加型イベント「日本海大水槽バックヤードツアー」

1 月に 4 回、2 月に 4 回の計 8 回、参加可能組数を 4 組と定めて実施した。新型コロナウイルス感染防止対策として、アルコール消毒や抽選の際に一定の間隔をあけてもらう等の対策を行った。日本海大水槽を中心に、水槽の上部、活魚輸送車、餌の種類や冷凍標本、濾過槽や予備水槽等をツアーガイド形式で巡り、説明をした。普段見ることのできない水族館の裏側を紹介することで、水族館

の仕事に興味を持ってもらうきっかけを作ることができた。

⑨ 参加型イベント「ペンギンバックヤードツアー」

夏に実施する予定であったが、新型コロナウイルス感染症の影響で、1月に時期をずらして実施した。

主にペンギンの繁殖について、解説パネルや標本を使って、繁殖生態や日常の飼育管理について解説し、実物の見学も合わせて理解を深めてもらえるようにした。

なお、開催期間中に新潟県内の死亡野鳥から高病原性鳥インフルエンザウイルスが検出され、ペンギン舎内への立ち入りを制限するなど内容の縮小をしたが、概ね好評であった。

⑩ 参加型イベント「イルカバックヤードツアー」

新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から、開催期間を変更し1月23日～2月14日までの毎週土日合計8回14:30～14:50の約20分間とした。

毎年行っているイルカバックヤードツアーと比較して、今回は実施時間が約半分ということもあり、ツアールートや解説内容を厳選しコンパクトにまとめて行った。これにより時間は短かったが満足度は高く、アンケート結果からは、とても面白い・面白いが95%以上であった。抽選会場を観覧通路ではない2階団体休憩室に変更したにも関わらず、抽選倍率は4.8倍と多くの方が希望され、改めてイルカのバックヤード見学を望まれる方が多いこと明らかとなった。イルカの出産や育児サポートなど通常時にはない業務が増えているため、日々開催は難しいが、短時間でバックヤードを紹介することが可能であることが示唆され、来年度以降の検討材料となるプログラムであった。

⑪ 参加型イベント「館内探検スタンプラリー」

館内に14箇所の30周年特別解説ブースを設置し、そのうち9箇所にスタンプを置いて参加者が館内を巡りながらスタンプを集める形で実施した。スタンプ台紙の配布用ラックは入館者が入り口で自由に手にできるように配置して、気軽に参加できるイベントとした。

開始日は計画段階では7月23日であったが、新型コロナウイルス感染症拡大に伴い、混雑を避けるため9月1日からとし、終了は翌年4月30日にした。開始から10月18日までは応募箱を設置し、スタンプを押した台紙で応募すると抽選で記念品を郵送するプレゼントも行った。プレゼント期間中の応募数は15,040枚、1日平均313.3枚であった。

初めての参加者は館内を隈なく回らないと全部のスタンプが見つけれず、やや難易度の高い設定であったが、プレゼント期間以外でも館内を探し回る親子の姿が多く見られ、入館者の関心は期間を通して高かった。ブース設置コストは必要であったが、運用期間中の維持管理コストは低く、参加人数を考えると費用対効果の非常に高い企画であった。

⑫ 参加型イベント「大水槽の給餌体験」

日本海大水槽での給餌体験を通し、調餌や飼育などの方法を伝え、生き物の飼育や、飼育するための設備などに関心を向けてもらうことを目的として実施した。入館者を対象に8月に1回、9月に1回、12月に4回、3月に2回の計8回実施した。定員4組に対し、毎回20組程の応募があり、未就学児から成人まで、様々な年代の方の参加が見られた。参加者からは、「見られない所を見られてよかった」「飼育員から実際に説明を聞けてためになった」「子供と一緒に参加できてよかった」等の感想が得られた。また、「配電盤はどんな目的で使う?」「水族館の水はどこから?」「濾過槽のバルブ

はどうやって操作しているのか？」など、機械類についての質問も多く、アンケートでは「循環ポンプの迫力があって良かった」「餌の種類が多くて驚いた」「水族館で働いてみたい」等の回答もあり、本イベントの目的を達成することができたと評価している。

⑬ 参加型イベント「イルカ健康管理解説」

5月16日～22日の平日16時から開催予定のプログラムであったが、新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点より、会期を変更し、10月3日～10月25日までの土日16時から合計8回の開催とした。実施時刻が遅かったにも関わらず8回合計で425名の参加者があり、イルカの健康管理への関心の高さがうかがえた。内容は、体温測定や歯茎のブラシマッサージ、体表の垢こすり、採尿や採便など、普段行なっている健康管理項目を実演しながら解説して紹介した。日々の健康管理はショーとは異なる時間帯のため、ご覧いただく方は少ない。このような機会を設けることにより、普段のショーでは伝えきれていない情報を発信できる良い機会となったと思われる。

⑭ 参加型イベント「ドルフィンスプラッシュ」

7月27日～8月7日、8月19日～27日の平日14時のイルカショー後に行う計画であった。新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から、開催変更も含めて検討したが、濡れるプログラムのため開催自体が夏季以外は難しいと判断し、中止した。

⑮ 参加型イベント「バイカルアザラシの給餌解説」

夏に実施する予定であったが、新型コロナウイルス感染症の影響で、11月に時期をずらして実施した。また、密集防止のためイルカショーの時間に合わせて実施した。給餌に合わせたトレーニングの様子を見ながら、ゴマファアザラシとの違い、視覚を中心とした認知能力、野生の生息環境などを紹介した。

⑯ 参加型イベント「ビーバーの餌採集と給餌体験」

夏に実施する予定であったが、新型コロナウイルス感染症の影響で、9月に時期をずらして実施した。また、採集したヤナギを参加者が直接ビーバーに与える予定であったが、密集を防止するために職員が与え、その様子を観察してもらった。

ビーバーが草食であることを知らない人も多く、実際に食べているものや食べ方を見ながら生態について解説することにより、参加者に新しい知識を提供できたのではないかと考えている。

⑰ いきもの教室（自主事業）

例年は年間10回程度開催しているが、本年度は30周年記念イベントを多数計画したため、いきもの教室は年度後半に4回を計画し、実施した。4回は全て違うプログラムとし、対象年齢は8月「貝」、3月「サメ」が小学生以上、1月「コレ」、2月「おやこ」は4～6歳児とその保護者とした。4回の平均応募率は定員に対して533.3%（昨年度257.4%、一昨年度291.4%）で定員割れした回はなかった。最も高かったのは2月「おやこ」の781.3%で、未就学児対象企画の需要の高さが確認できた。募集の告知は「市報にいがた」「当館ホームページ」「館内での募集」「ラジオやテレビ番組内マリニアインフォメーション」「イベントポスターにチラシを同封し市内の小学校に配布」などで行った。なお4回のアンケート結果を見ると、100%の方が「とてもおもしろかった」「おもしろかった」、92.6%の方が「今度またぜひ参加したい」「今度また参加したい」と回答し、参加者の満足度は高かった。

⑱ にいがたフィールドガイド

実施月に 1 回、約 20 分間、にいがたフィールドを歩きながら、生息する動植物とシナイモツゴなど絶滅危惧種の生息域外保全などについて解説するプログラムである。今年度は、実施中に観察された生物だけではなく、事前に採集しておいた生物やパネルなども用いて実施した。観察できる動植物が季節によって異なることや情報の補足などに用いるため、リーフレットを作成し、終了時に配布した。にいがたフィールドの魅力をより深く知ることにより、身近な水辺環境への関心を持ってもらう機会になった。完成されたプログラムとして今後も継続を考える。4 月、5 月、6 月、10 月に実施予定であったが、新型コロナウイルス感染症のため、前半部が実施できず、6 月、7 月、9 月、10 月の実施となった。感染防止対策として、スタッフと参加者ともにマスク着用と手指のアルコール消毒を実施し、密集を避けるため 2 から 3 グループに分けて案内した。

⑲ ペンギンの日イベント

4 月 25 日の「世界ペンギンの日」に合わせて、直近の土曜日と日曜日の 2 日間、もっとペンギンを知ってもらえるイベントを開催する予定であったが、新型コロナウイルス感染症の影響で中止し、8 月 14 日~8 月 23 日まで解説パネルと標本の展示を行った。

土曜日にバックヤードを含むガイドツアーを 2 回実施し、日曜日にアクアラボ内で標本・当館の繁殖の取り組みを展示し、記念品作製・クイズコーナーを設置する予定であった。

今後も継続的に実施して、あまり知られていないペンギンの生態や形態、野生の状況などについて、ガイドツアーやクイズを通して楽しみながら知ってもらい、ペンギンをきっかけとして生物の生息環境に関心を持ち、さらに身近な自然環境に興味を持ってもらえればと考えている。

⑳ カワウソの日イベント

5 月の最終水曜日が International Otter Survival Fund により「World Otter Day」と定められていることから、カワウソ類を飼育する国内約 40 園館と歩調を合わせる形で実施する予定であったが、新型コロナウイルス感染症の影響で中止し、8 月 1 日~8 月 13 日まで解説パネルの展示を行った。

水辺の小動物エリアのユーラシアカワウソ水槽で生き餌を与えて捕食行動を見ながら解説、アクアラボ内でラッコとカナダカワウソの毛皮触り比べ、ぬり絵・書籍・記念品作製コーナーを設置して解説し、カワウソについての知識を深めてもらう予定であった。

今後も継続的に実施して、より多くの方が身の周りの自然環境について考えるきっかけになればと考えている。

㉑ 田んぼ体験（田植え、稲刈り、脱穀、稲わら体験）

今年度は新型コロナウイルス感染症拡大による影響で中止とした。

本プログラムはにいがたフィールドの田んぼで田植えから稲刈り、脱穀までの稲作の体験と収穫したワラを使ったワラ細工体験を行うプログラムで、リニューアル後の 2013 年から毎年実施している。4 歳以上の幼児とその親を対象としているため例年応募数が多く、また、実施後のアンケートでも満足度の高いプログラムであることから、中止は非常に残念であった。

㉒ 野外観察体験会「潟のいきもの観察会」

新潟市が誇る水辺環境である里潟への理解を深めることを目的に実施を計画した。6 月 21 日、上堰潟公園の池と周辺水路にて、水生採集と観察を行い、併せて上堰潟公園を育てる会の協力のも

と、田船体験を行う予定であったが、新型コロナウイルス感染症の拡大のため全て中止となった。

⑳ 野外観察体験会「スナガニ野外観察会」

新型コロナウイルス感染症防止対策として、通常 20 名の定員を 16 名に減らし、マスク着用に伴う熱中症対策として、実施日を 7 月 4 日（または 11 日）から 9 月 13 日に変更した。水族館の地先海岸の砂浜で、スナガニをメインに観察・採集を行い、どのような生き物が砂浜を利用しているのか理解・興味を深めることを目的として実施した。巣穴構造を理解してもらうために、石膏で型を取るなどの工夫をした。アンケートに「身近にこんなカニがいたことを初めて知った」とあり、地域の自然環境に興味を持って接してもらうきっかけを作ることができた。有意義なプログラムであったと実感している。

㉑ 大人向け水族館教室「写真教室」

フォトコンテストと連動する形で毎年実施している企画で、今年度も 10 月 25 日に実施する計画であったが、新型コロナウイルス感染症拡大の影響によりフォトコンテストとともに中止した。

㉒ 大人のための水族館講座（自主事業）

大人向けの講座は毎年実施しているが、今年度は対象者を高校生以上の年間パスポート保有者とした。また、1 回限りのプログラムではなく、同じ参加者での全 4 回のプログラムとした。第 1 回は 30 年の歩みについてのレクチャーとバックヤードツアー、第 2 回は水族館の基礎知識と展示課職員によるペンギンの話、第 3 回は展示課職員による淡水魚の保全とイルカの繁殖の話、第 4 回は当館副館長と特別ゲストとして鶴岡市立加茂水族館の奥泉館長によるこれからの水族館についてのレクチャーと座談会を行った。

見学プログラムは第 1 回目のバックヤードツアーのみで、その他は全て講義形式であったが、話題が多岐に渡るようにプログラムしたことや、最終回に奥泉館長を招聘したことなどにより、非常に満足度の高いプログラムとなった。

なお、新型コロナウイルス感染症対策として、参加者に体調管理の徹底やマスク着用をお願いした。

㉓ ナイトツアー

8 月と 9 月に 1 回 16 名の定員で 4 回実施した。合計定員 64 名のところ、294 名の応募があった。参加費が入館料及び 500 円と、当館のイベントの中では高額な部類に入る企画であるにもかかわらず、ナイトツアーの人気は高い。通常観ることのできない閉館後の夜の水槽の様子を観察してもらい、昼と夜での生き物の活動の違いや外観の変化等をツアーガイド形式で解説し、水生生物の生態や自然環境への関心を深めてもらった。完成されたプログラムとして継続を考える。

(5) 企画イベントの実施状況について

[総括]

① 30 周年開館日ノベルティ配布

開館記念日を含む 3 日間(7 月 25 日～27 日)、有料入館者にオリジナルノベルティ(クリアファイル等)を配布した。

② 2021 年オリジナルカレンダープレゼント

毎年恒例のプレゼントとして、11 月 15 日から引換券を提示した先着 1,200 名へオリジナルカレンダーをプレゼントした。

③ クリスマスツリー展示

11 月 21 日から 12 月 28 日の間、マリンピアホール(円柱水槽側)に高さ 4.5 メートルのクリスマスツリーを展示した。また、昨年実施した新潟青陵大学アカペラサークルによる点灯式及びクリスマスミニライブは新型コロナウイルス感染症拡大の影響により実施は見送った。

④ 門松展示

1 月 2 日から 7 日の間、正面入口に門松を設置し、お正月の雰囲気を出した。

⑤ 新成人キャンペーン

1 月 3 日～17 日の間、成人式会場で配付したクーポン券チラシやスマートフォンなどで当館 HP のクーポン券などを提示した新成人及び同行者 1 名を無料入館とした。また、館内レストランの割引クーポン券も併せて配付した。期間中、248 人の新成人とその同行者 227 人が来館した。

⑥ 年間パスポート販売キャンペーン

1 月 6 日～2 月 11 日の 37 日間、昨年度に引き続き、年間パスポート購入者へ館内ショップ・レストランで使用できる割引クーポン(大人 500 円分、小人 200 円分、幼児以下にはシール)をプレゼントした。さらに今年度は、大人のパスポート購入者から抽選で 50 名の方に 2,000 円分の同クーポンをプレゼントした。期間中 2,013 人が購入し、昨年度の 2,665 人を下回ったが、コロナ禍の中、一定の効果はあった。

(6) 専門的な調査・研究等について

[総括]

「魚類等の繁殖・育成に関する調査」「鯨類の生理に関する調査」等、飼育水族に関する様々な調査研究を行っている。また、「漂着生物調査」「地域生物調査」等、野生水族に関する調査を行い、地域の自然史に関する知見の蓄積に努めている。

今年度は新型コロナウイルス感染症拡大により日本動物園水族館協会の会議や研修会の多くが中止となったが、他園館との最新情報の交換等を通して飼育技術の一層の向上を図った。また、日本動物園水族館協会生物多様性委員会との協力体制を維持し、絶滅の危機に瀕している種の保存に努めるとともに、調査研究を行っている。これらの様々な研究の成果をホームページで公開する等、新潟における水辺の環境・水生生物についての情報の収集・発信基地としての役割を担っている。状況に応じて、特定外来生物が生態系に与える影響や、絶滅が危惧されている希少種についての情報を積極的に発信している。

日本水族館協会の第 1 回水族館研究会 Web 会議では、「鮮魚を用いたヤナギムシガレイの人工授精」を発表した。新潟県環境企画課、新潟市環境政策課等が主催する、ちょ〜生きもの発表会では、「淡水魚の保全 -水族館の取り組み-」を発表した。

他の研究機関との水生生物に関する研究も積極的に行った。水産庁栽培漁業総合推進委託事業の一環として、国立研究開発法人水産研究・教育機構日本海区水産研究所、富山県農林水産総合技術センター水産研究所とアカムツの種苗生産技術の開発に関する研究を行い、アカムツの親魚養成技術の開発を担当し成果を報告した。

他園館との共同調査では、ふくしま海洋科学館と水中カメラロボットによる日本海深海域の調査を昨年引き続き行い、アズマハナダイとシキシマハナダイの動画撮影に成功した。この動画でシキシマハナダイの求愛行動も確認され、新潟県沖で本種が繁殖している可能性が初めて示唆された。

生体入手の困難な種の飼育展示のための調査・研究でも成果を得た。日本海を特徴づける魚類の展示種数を増やす努力をし、地域の自然の情報発信に努めた。

生物多様性保全ネットワーク新潟が主催する「夏休み親子魚探検隊 2020」に協力し、水生動物相を調べ、在来生態系に悪影響を及ぼす外来生物の生息状況も明らかにした。関川村タランベクラブの「親子で川遊び -川の生き物観察会」に講師として参加し、水生生物について解説した。

今後も、より一層専門的な調査・研究に努め、その成果を市民へ還元していきたい。

(7) 総合学習等の受け入れ状況について

[総括]

文部科学省の提唱に基づく学習支援活動としての「総合学習」の受け入れを行っている。質問・インタビューを通して、子どもたちに生き物や環境に関する知識を伝える場となっている。また、職業に対する関心を高めることや、職業・職種の内容や働く意義について考えを深めるキャリア学習の一環としての総合学習にも対応している。

今年度は新型コロナウイルス感染症による学校休校や臨時休館の影響で4月5月の受け入れはなかった。6月以降は概ね例年並みに戻り、最終的に16校311人への授業を行った。

来館した児童・生徒から、多数の礼状や感想が寄せられている。水族館や水生生物への関心を呼び起こす機会や環境保全について考える機会として、また、社会に目を向け、働くことや学ぶことの意義や大切さを理解していく場として非常に役立っていることから、今後も可能な限り受け入れを行っていきたい。

(8) 実習生等の受け入れ及び講師派遣の状況について

[総括]

実習生等の受け入れとして、専門学校生を対象に「飼育実習」、大学生を対象に「インターンシップ」「獣医実習」「博物館実習」を行っている。実習生は県外からの学生が多いことから、今年度は全て受け入れを中止した。しかし、博物館類似施設としての一面を持つ水族館として、専門学校生・大学生に実習の場を提供するという社会的貢献の側面はもちろんのことであるが、指導を通じて職員の自己研鑽の場ともなっているので、今後も継続して受け入れを行っていきたい。

また、アウトリーチ事業の一環として、様々な「場」への講師派遣を行った。新型コロナウイルス感染症拡大の影響により回数は少なかったが、内容は、大きく分けて「野外での観察等の指導」と「教室(屋内)での生物や仕事についての講義・指導」であった。対象が小学生から一般と幅広く、また、派遣先のニーズに合わせた内容にする必要があることから、派遣職員の指導者としての専門性が要求される取り組みとなっ

ている。

毎年度継続して実施していた新潟大学臨海実習については、新型コロナウイルス感染症拡大の影響により中止となった。海洋フィールドを題材にできる貴重な教育学習機会であることから、今後も継続して指導者を派遣していきたい。小中学校への講師派遣は、小学校への職業講話が4校、中学校への職業講話が2校であった。

感染状況を考慮し、今後も、実習生受け入れやアウトリーチ事業を地道にそして積極的に行っていくことが、水族館と地域・社会とのつながりを強固にし、広げていく基礎となると考え、継続していきたい。

(9) 市民ボランティアの活動の状況について

[総括]

ボランティア活動の目的を大きく「水族館(専門家)と来館者(非専門家)をつなぐ役割」「生涯学習の場」「自己実現の場」の3つとして活動をサポート、コーディネートした。

新型コロナウイルス感染症拡大の影響で、2月29日から5月31日まで活動を休止した。また、例年5月におこなっている新規募集も中止した。6月1日からの活動再開に際し、ボランティアには高齢者も多いことから「新型コロナウイルス感染症に関して不安をお持ちの方は活動を自粛してかまいません」というメッセージを送った。また、活動する際には体調管理の徹底とマスク着用をお願いした。

活動状況は活動日数45日(令和1年度=139日)、活動延べ人数65人(令和1年度=390人)であった。昨年度に比べて日数で1/3、人数は1/6になっているが、前述したとおり新型コロナウイルス感染症の影響である。日数の減少割合(1/3)に対して人数の減少割合(1/6)が多い理由は、同じ日に多くの人数が活動する「いきもの教室」の実施回数が例年の約10回から4回に減ったこと、併せて「総会」や「研修」などを行わなかったことが考えられる。

来年度もしばらく新型コロナウイルス感染症拡大の影響が続くことが予想されるため、ボランティアのモチベーション維持の工夫を考え、水族館・来館者・ボランティアの3者が満足できる活動を推進し、この困難な時期を乗り越え持続的なボランティア活動を目指していきたい。

(10) 広報および広告宣伝について

今年度の広報および広告宣伝について、新型コロナウイルス感染症拡大を考慮し、新潟県内を中心に行った。コロナ禍で県外からの来館が難しい中、総入館者に対する年間パスポート購入者及び利用者の割合が増加している。年間パスポート会員はほとんどが新潟市在住であることから、一定の広告効果はあったと思われる。

① テレビCMとラジオCM

テレビCMは、8月まで通常CMとして、「いきものカード」シリーズを放映した。9月からは新潟を代表するアーティストNegiccoが出演する30周年記念バージョンCMを制作し放映した。この素材を使い、JR新潟駅西側通路でイメージソングをBGMとして流すほか、youtubeでも配信を行ったり、街頭サインージでも放映した。1月は年間パスポートの購入促進として、キャンペーン告知のCMを放映した。放映構成として、新潟は通年の固定CMとNegicco出演CM、夏休み・春休みへの集中スポットCMとTeNY「わくわくマリニピア」、福島・山形は夏休み・春休みへの集中スポットCMを実施した。

ラジオ CM は、BSNラジオのみで放送した。夏休みには集中スポット CM の実施や、館内からの生中継、3 月にはBSN新潟放送のスタジオでスタッフが生出演し、リスナーの質問に応えるなどの対応を行った。

② 雑誌・新聞などの紙媒体への広告

雑誌は、知名度が高い年刊誌(全国誌)及び県内の月刊誌(子供の遊び場特集)へ継続掲載した。また、新聞は、産経新聞 新潟・長野・山梨板で月 2 回生物コラムを連載した。

③ WEB

オウンドメディアへの展開としては、当館ホームページ、Twitter、LINE@、Facebook、Instagram などの更新をより頻繁に行うことで、情報の拡散に努めた。また、現場の飼育スタッフによる Twitter アカウントを設定し、タイムリーな生物情報の発信に努めた。

4 月 21 日から 5 月 10 日の臨時休館中は、館内生物の動画配信を集中的に行った。

また、有料 WEB 広告として、Instagram 及び youtube 広告を実施した。新潟、福島、山形のほか、群馬への広告も実施した。

④ プレスリリースなど

プレスリリースは、各イベント・生物情報を積極的にを行い、実際に取材に結びつくものが多かった。特にカマイルカの出産やド・バイカルアザラシの搬入は、地元テレビ局の密着取材を受入れ、他館との連携を PR することが出来た。

⑤ その他

「広告料」を必要としない誘客・宣伝活動も「広報」の一つとして位置づけており、その主なものとしては、小学校に直接配送するチラシを今年も実施し、新潟、福島、山形に配送した。また、館外で行う生物展示や解説・クイズなどの出張展示も積極的に行った。また、全国・地方テレビ番組からの生物に関する質問や写真映像等の借用依頼にも積極的に協力し、番組内で館名をクレジット表示してもらうことにより、館名と専門性の認知度向上に努めた。

(11) 他園館との協力について

[総括]

アクアパーク品川、東海大学海洋科学博物館、ふくしま海洋科学館、マリホ水族館、鶴岡市立加茂水族館、サンシャイン水族館、新江ノ島水族館、千葉市動物公園、小諸市動物園と生物交換を実施した。

しながわ水族館、神戸市立須磨海浜水族園、下関市立しものせき水族館、葛西臨海水族園、札幌市円山動物園、市原ぞうの国、よこはま動物園、飯田市立動物園、いしかわ動物園、福山市立動物園とブリーディングローンを行っている。

伊勢夫婦岩ふれあい水族館、大分マリンパレスから生物を購入した。

ふくしま海洋科学館と共同で調査・採集活動を実施した。

葛西臨海水族園でウミガラスの飼育研修を受けた。

市民ボランティア活動として実施してきた他園館視察は、新型コロナウイルス感染症防止のため昨年

度に続き中止した。

(12) 年間入館パスポートについて

[総括]

今年度の年間パスポートの購入者は、13,482人(総入館者の3.7%)、パスポート利用者(購入者+リピーター)は64,887人(総入館者の21.5%)となった。また、パスポート利用者の平均入館者数は5.8回であった。

年間入館パスポートも新型コロナウイルス感染症拡大の影響が顕著に表れ、総入館者数に対する購入者及び利用者の割合は共に昨年度を上回っている(購入率:2.7%→3.7%、利用者率:16.7%→21.5%)。購入者数は昨年度の13,905人から423人減少し、コロナ禍ではあったが、例年同様多くのお客様からご購入いただいた。昨年度に引き続き、館内外で積極的に広報したことや口コミによるお得感などが購入者維持に繋がっていると考えられる。特に、例年実施している購入者へ館内のレストラン・ショップで使用できるクーポン券をプレゼントする「年パスキャンペーン」を実施した際は、期間中多くの方にご購入いただき、キャンペーンが来館のきっかけとなり、多くの市民にとって年間パスポートへの需要が潜在的にあることが改めて伺えた。今後も話題提供や特別展示などの情報提供を行い、年間パスポート会員に繰り返し来館していただくことが入館者増に繋がると考えられる。

アンケート調査での「生き物の展示」について96.9%の人が「非常に満足」「満足」と回答しており、テーマや季節感に沿った特別展示などを行い、生物の変化を発見できたことが評価されたと考えている。他にも「来館するたびに楽しんでいます」「乳児無料がありがたい。よく利用させてもらっています」「毎回新鮮で楽しいです」などの声のほか、「コロナで大変ですが頑張ってください」など励ましの声もいただいている。

また、「次回パスポート購入予定は」との問いに対しては、「購入の予定なし」と答えた人が1.0%で、91.8%の人からは「購入したい」と回答してもらうことができた。

今後も、生物の成長や変化が体感できる展示等を心掛け、リピーターに十分満足してもらえるようにしていきたい。

(13) 市・他団体等との協力

[総括]

今年度に行政や他団体等と協力して実施した事業は以下のとおりである。

水族館の集客力アップや安心・安全強化のため、他施設・他団体との協力が不可欠であり、指定管理者だけではなしえなかったサービスを展開できる。今年度は新型コロナウイルス感染症拡大の影響により内容の変更などがあったが、多くのお客様から楽しんでもらい、満足してもらえたと思う。今後も、積極的に機会を捉え、他団体や民間の持つ多様なチャンネルを活かした事業に取り組んでいきたいと考えている。

① 新潟広域都市圏連携事業「文化・観光施設共通割引券」の導入

新潟広域都市圏連携事業「文化・観光施設利用促進」により、「文化・観光施設共通割引券」を実施した。新潟市だけでなく広域都市圏の方も割引で入館でき、1,925人のお客様が来館された。

- ② 一般社団法人日本自動車連盟(JAF)会員割引
全国的な自動車ユーザー団体である一般社団法人日本自動車連盟と連携し、会員に対し当館のPRを行い、会員証提示で割引を行った。入館促進が図られ、16,504 人のお客様が来館された。
- ③ 内閣府が実施する「子育て支援パスポート事業」への協賛
内閣府の社会全体で子育て世帯を応援するという趣旨に賛同し、全国共通展開する「子育て支援パスポート」事業に協賛し、当該事業の会員に対し割引を行った。9,988 人のお客様が来館され、新潟の観光促進と当館の入館促進が図られた。
- ④ 生物多様性の魅力紹介パネル展
新潟市環境部環境政策課が主催する企画展に新潟ダイバーシティネットワークのメンバーとして協力した。展示会場は天寿園で、会期は令和 2 年 7 月 18 日から 10 月 4 日まで。
本企画展は新潟ダイバーシティネットワークの紹介やネットワークに参加する各施設の展示や取り組みを紹介するもので、当館の他、県立植物園・県立鳥屋野潟公園・新潟市歴史博物館みなとぴあが参加した。
当館は、30 周年紹介・にいがたフィールドの紹介・シナイモツゴ保全のパネルをメインにポスター展示やパンフレット設置などをおこなった。
- ⑤ 新潟大学医歯学総合病院 小児病棟へ「ぬり絵で缶バッジ企画」
例年、新潟大学医歯学総合病院小児病棟への出張展示を実施していたが、今年度は新型コロナウイルス感染症の影響で病棟での実施が困難であったことから、出張展示の際におこなっていた「ぬり絵で缶バッジ」のみを 9 月におこなうこととした。実施に際しては、当館職員が病棟に入ることができないため、病棟保育士に当館に来ていただきぬり絵原稿を渡し、約 1 週間後に患児がぬり絵をした作品を当館に持参していただいた。当館でその作品を缶バッジに加工し、再度来館していただいた病棟保育士に缶バッジを引き渡した。患児およびその保護者から非常に好評であったことを後日病棟保育士から報告していただいた。
- ⑥ にいがた環境フェスティバル 2020 出展
11 月 8 日万代島多目的広場(大かま)で開催された、新潟県主催「にいがた環境フェスティバル 2020」に出展した。出展ブースでは、ミズクラゲや新潟県内で見られる淡水生物の生体展示、当館での希少淡水魚の保全についてのパネルを展示した。会場全体で約 1,200 人の入場者があったが、当館の展示ブースはメイン入口に近かったことから、多くの入場者が立ち寄ってくださった。
- ⑦ 第 3 回ちよ〜生きもの発表会
にいがたダイバーシティネットワークを母体とした生きもの発表会実行委員会に当館も参加し、企画に参画・当日運営の一翼を担った。会場は天寿園で、他にオンライン配信もおこなった。会場入場者は約 80 名であった。本発表会には新潟県内で生きもの調査研究をしている NPO や高等学校生物部、博物館などが参加し、一般発表 12 題、特別発表 1 題の計 13 題の発表があった。当館からは「淡水魚の保全—水族館の取り組み—」を発表した。

⑧ 新潟市「お家で過ごそう応援プロジェクト」

新型コロナウイルス感染症対策によるステイホームの呼びかけに応じて、新潟市環境部環境政策課が発案し 5 月に新潟市ホームページに立ち上げたサイトに当館の SNS の情報を提供した。他の協力施設はにいがたダイバーシティネットワーク参加施設である県立自然科学館、県立植物園、新潟市歴史博物館みなとぴあ、県立鳥屋野潟公園 などであった。なお、サイトは現在も閲覧することができる。

⑨ 亀田福寿大学での講演

亀田福寿大学探訪部からの依頼で 10 月 14 日に亀田公民館で講演をおこなった。亀田福寿大学は亀田公民館の生涯学習事業で、探訪部には平均年齢 76 歳の約 60 名が在籍していて、当日も 60 名近い参加があった。講演タイトルは「水族館 なにを展示するところ？」とし、水族館の普通の仕事や水族館の社会的な役割などについて講演した。

⑩ 日本財団 海と日本プロジェクト in 新潟 イベント

11 月 22 日に海と日本プロジェクト in 新潟主催のイベント「新潟の海の魅力を知り隊・伝え隊・守り隊！」に協力して講演をおこなった。本イベントは 11 月 21 日・22 日に小学 5・6 年生を対象に開催された 1 泊 2 日のイベントで、県内在住の 20 名が参加した。全体のテーマは村上市でのサケにまつわる生物・環境・文化について学ぶことがメインであったが、その中で当館へのオーダーは新潟の砂浜海岸の環境についてであった。近代で新潟市の砂浜が無くなっている状況について、川と海のつながりの視点から川の護岸工事やダム建設などを絡めて解説した。

⑪ 県立がんセンター新潟病院小児病棟へのライブ配信

3 月 25 日に県立がんセンター新潟病院小児病棟の保育プログラムとして館内からライブ配信を行った。本保育プログラムが契約している ZOOM を利用して配信した。入院している患児と保護者は小児病棟のプレイルームの大型テレビや病室で観覧していた。非常に好評で、担当保育士と心理士からはぜひ来年度も実施してほしいと依頼された。

⑫ 小学校用ワークシートの制作・配布

小学校が校外学習で来館する際に利用できるワークシートを新潟市教育委員会に意見を伺いながら 7 種類作成し、新潟市内の小学校へ見本を配布した。現状では校外学習で本ワークシートを活用した小学校は 3 校(把握している校数)であるが、今後も教育委員会に相談しながらより良いものを作成して予定である。

3. 入館料収入の実績について

令和 2 年度入館料収入 296,047,488 円

[総括]

入館料の徴収事務については、協定書に基づき適切に実施した。

今年度は新型コロナウイルス感染症拡大の影響により入館者数は 364,392 人で、前年度の 509,286

人から約 144,894 人減少した。それに伴い、入館料収入でも 296,047,488 円で前年度の 432,686,238 円から 136,640,750 円減少した。対前年度比は 68.4%となった。客単価は 812 円であり、前年度の 849 円から 37 円下がった。県をまたぐ移動が難しい中で、県外からの来館者が減少したことが要因と思われる。

コロナ禍で収入増対策は難しい状況であったが、夏休みの学校の長期休業に合わせ、新潟市内の幼稚園・保育園、新潟市外県内、山形、福島、群馬の小学校へ割引券付チラシ(提示で 1 組全員 2 割引)を配布した。また、昨年度同様 12 月には冬場の閑散期対策として新潟市内の小学校、幼稚園・保育園に同様の割引券付チラシの配布などを行った。実施期間中、割引券チラシを利用したお客様はある程度みられ、一定の収入があり、来館動機付けに一定の効果があったと考えられる。

全国で共通展開する「子育て支援パスポート事業」では、9,988 人のお客様にご来館いただいた。新型コロナウイルス感染症拡大の影響で前年度の 14,084 人から減少したが、新潟市内のお客様については年間パスポートへの移行を期待したい。

また、リニューアル後導入した大手コンビニエンスストアのオンライン端末機で入館チケットが購入できる「コンビニチケット販売」や、同じくリニューアル後導入した、会員証の窓口提示で 5 人まで 2 割引となる「JAF カード割引」も継続して実施している。

入館料の免除については、新潟市水族館条例・施行規則に基づき適切に実施した。今後も来館する幼稚園・保育園、小学校、老人施設、福祉施設などが増え、質量ともに負担のかかる業務になることが予想されるが、団体休憩室の予約など状況を把握し不備のないよう行っていきたい。

4. 管理経費等の収支決算について

[総括]

必要な物品購入や委託、修繕工事等を十分に精査し経費削減に努めた。

人件費は、昇給に伴い増加傾向であるが、その他の管理経費は、経費削減に努め予算の範囲内で管理運営を行うことができた。

今年度は新型コロナウイルス感染拡大防止のため、4 月 21 日から 5 月 10 日までの 20 日間臨時休館を行った。水族館の管理に係る経費は、飼育生物の維持、設備の保守等でほとんど減額されることはないが、臨時休館した期間がゴールデンウィークを含んでいたため、この間の駐車場等警備委託料や観覧エリアの光熱水費約 200 万円が不要となった。また、職場全体に感染が拡大しないように勤務体制を 2 班の交代制にして対策を行い、これにより勤務できない日が生じたため、当該日の扱いを正職員は年次有給休暇または休日・祝日振替とし、臨時職員は勤務扱いとして休業補償を行った。

昨年度 3 月に死亡したラッコの次期展示生物としてウミガラスに決定した。展示生物の変更に伴い大規模な設備の改修が必要となり、総額で 10,000 千円の経費を要した。本来、250 万円以上の工事は、新潟市水族館の管理に関する基本協定書により新潟市が負担することになっているが、光熱水費等で残が見込まれたため新潟市と協議の上、指定管理料で支出することになった。

海水取水設備においては、平成 30 年度に取水管 200m 延長工事を行ったことにより、以後、冬期の海水着水槽の植物片の流入がなくなり、今年も除去作業などの突発的な支出は発生しなかった。水族館の生命線である海水取水設備であることから、施工業者と密に連絡を取り協力しながら、毎年の保守点検等で今後も注視していかなければならない。

経費が嵩む修繕工事費については、リニューアル工事で未着手だった建物・設備箇所のほか、リニューアル工事で更新した建物・設備についても、不具合が生じてきており、その都度修繕工事を行ってきた。一方で、経費を抑えるための対策として、昨年に引き続き光熱水費の夏場の最大電力を抑えるため、設備の間欠運転や、空調の設定温度を上げるなど積極的な節約を行った。その他、新型コロナウイルス感染症拡大の影響により入館者数の減少が予想されたことから、券売受付職員を1名減らして対応した。また、平成27年度末に導入した活魚輸送車については、魚類搬入に際し計画的に活動を行った。新型コロナウイルスの影響で県外への移動が難しい状況であったが、魚類購入の際、業者に依頼することなく自前で多くの魚類を購入・運搬することが出来たことから、経費削減に貢献することができた。

工事については、不具合による修繕工事費が依然として嵩んでいることから、来年度も大規模修繕が発生した場合や不具合が予想される場合は、市と相談しながら行っていきたい。

次期指定管理期間も「最小コストで最適な管理」を目指し、かつ、お客様への快適なサービス提供を図るという基本原則に則り水族館の運営を行っていきたい。

5. 最後に

今年度の入館者数は、364,392人(対前年度比71.5%)、入館料収入は、296,047,488円(対前年度比68.4%)と、新型コロナウイルス感染症拡大の影響により昨年度と比較し大きく減少した。事業計画書で掲げた入館者数目標値の542,000人、入館料収入目標値473,820,000円にも遠く及ばなかった。リニューアル工事休館をした年度以外では、過去最低の数字になった。緊急事態宣言発令に伴い、ゴールデンウィーク前後の20日間、臨時休館の実施などもあり、今まで経験したことがない1年であった。

今年は開館から30周年を迎え、様々な記念事業を計画していたが、新型コロナウイルス感染症拡大の影響により年度当初から見直しをせざるを得ない状況になり、新潟市と協議を行った上で感染状況を見ながらイベントの中止や内容変更を行った。

コロナ禍ではあったが年間パスポート購入者数及びリピーター数は大きな落ち込みは見られず、例年実施している「年パスキャンペーン」でも、期間中多くのお客様から年間パスポートを購入していただいた。お得感から年間パスポートに対する購入意識は依然として高い。新型コロナウイルス感染拡大により県もまたぐ移動が難しい状況の中で、新潟市内のお客様が多くを占める年間パスポート会員数を今後も維持できるように努めていきたい。

平成25年のリニューアルオープン後、毎年500,000人以上の入館者数を維持してきたが、新型コロナウイルス感染症拡大の影響により初めて下回った。今後も影響は続くと思われ、感染症対策を十分行いながら入館者数の回復に努めたい。

入館者の満足度については、アンケート結果によれば、展示生物全般で、「非常に満足」と「満足」の計が95.5%、イルカショー、解説プログラムで「非常に満足」と「満足」の計が93.1%と今年度も満足度は依然として高水準を保ち、多くのお客様に喜んでいただいていると思われる。

今年度は新型コロナウイルス感染症拡大の影響で、県外からのお客様は少なかつたと思われるが、年間パスポート会員を除くお客様の来館回数については、「はじめて」が30.6%(前年度35.3%)と昨年度と比較し減少した。年数が経つにつれ「はじめて」が減ることは当然であるが、県外からのお客様は「はじめて」が全体の68.8%と最も多く、まだ来たことがない観光客が潜在的に多いことが伺える。一方、新潟市内のお客様は多くが複数回来館されており、「はじめて」は年々減少している。来館回数4回以上は全体の69.3%と圧倒的に多く、当財団が掲げるビジョン「新潟で一番愛される施設」を心がけたことがこのような

結果に繋がったと思われる。今後も、いつも来ても新鮮味のある展示に努めることで年間パスポート購入者の増加、さらにリピーターとして何度も足を運んでいただくことで入館者数増に繋げ、新潟市民に還元したいと考えている。

施設については、平成2年の開館時に設置された本館客用エレベータが、現在の建築基準法に対応しなくなったため、今年度、改修工事予算が措置され改修工事を行った。影響の少ない閑散期に工事を行い、期間中利用を全面休止し、春休み前に完成することが出来た。その他のリニューアル工事の対象外であった箇所でも突発的な不具合が依然として生じている。またリニューアル工事を行った箇所でも徐々に不具合が生じ、件数も増加傾向にある。今後も十分考えられることから、工事未着手の箇所に限らず、全体的に注意深く維持管理すると共に、設計会社が提案した修繕計画に基づき新潟市と相談し、早めの対応で不具合による事故が起こらないよう努めたい。

また、駐車場は、平成28年3月に水族館協の土地を整備し駐車場として56台増設したことで、繁忙期には周辺駐車場の回転が良くなっている。新型コロナウイルス感染症拡大の影響で駐車する台数も例年と比較し少なかったが、それでも夏季や9月の大型連休期間中は多客が予想され、周辺施設の協力により周辺施設が利用しない日に限り駐車場を借用した。一時的に飽和状態になる場面はあったが、駐車場不足は十分解消されて周辺道路の渋滞もほぼ見られなかった。海岸側臨時駐車場(ブロックヤード)の管理については、水族館のお客様以外の駐車車両が多く、指定管理者単独による管理は非常に困難になってきている。海岸側臨時駐車場からの道路の横断について、交通信号がなくお客様の安全が確保できないことが懸念されていたことから、多客が予想される日は警備員1名を配置した。

水族館を運営する上での重要な取水設備は、国土交通省の養浜工事の進展により、沖合200mの取水口付近の海底面の上昇が経年的に進行していたが、平成30年度に完了した延長工事により、現時点で危機的状況を回避できている。しかしその他設備、特に水管橋は劣化が著しいため、新潟市と協議を行いながら早急に対応したい。取水設備は水族館の生命線である海水を調達するための重要な設備であることから、今後も注視していきたい。

ソフト面については、従来のイルカショーやマリンサファリ給餌解説に加え、アクアラボ体験プログラムや磯の生きもの解説など体験型プログラムを充実させている。新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、イルカショーは内容の変更を行い、ショー時間が短縮された。各種解説プログラムは感染状況に応じ全て中止していた時期もあったが、規制緩和に伴い平日のみ開催等、段階的に通常に戻した。定期的を実施した「にいがたフィールドガイド」や30周年記念事業で実施した「バックヤードツアー」「大水槽の給餌体験」イルカバックヤードミニガイド、その他「ナイトツアー」や「いきもの教室」などは感染対策を行いながら実施した。昨年度に続き8月4日、飼育しているカマイルカが出産した。これに伴い8月3日～8月16日の間、イルカショーを中止した。事前に周知していたこともあり、当日来館されたお客様からはご理解いただいた。その後、8月25日から、カマイルカ親仔の一般公開を行った。

高病原性鳥インフルエンザ対策について、2月15日、新潟市の佐潟で回収されたマガモの死体から高病原性鳥インフルエンザの陽性が確定されたことを受け、2月17日からペンギン舎に防鳥ネット設置した。防鳥ネットは新潟県内の警戒区域指定解除に合わせ3月25日に撤去した。今後も渡り鳥が飛来する時期は様々な方向から情報を集め、周辺地域で発生した場合は、マニュアルに沿った対応・対策を行い、来館者、職員、飼育生物を鳥インフルエンザから守ることを最優先に考え被害の防止に努めたい。

WAZA(世界動物園水族館協会)からの残酷であるとの指摘により、和歌山県太地町でのイルカ追い込み漁からイルカ入手が困難となっている問題については、当館が加盟するJAZA(公益社団法人日本動物園水族館協会)及びJAA(一般社団法人日本水族館協会)と引き続き協議しながら様々な可能性を探っていきたい。

財団については、平成 29 年 3 月に公益財団の認定を受け、令和 1 年度より新潟市海洋河川文化財団が単独で 5 年間の指定管理者の指定を受け 2 年目の管理運営を行った。新型コロナウイルス感染症拡大の影響で厳しい状況ではあるが、安定した水族館運営を行いながら、法人としても健全な経営ができるよう努めていきたい。

新型コロナウイルス感染拡大が依然として続いている状況ではあるが、新潟市水族館としては今後もさらなる魅力づくりを目指し「水族館業務を行う専門家集団」として平成 2 年の開館当初から培ってきた豊富な知識と経験を生かし、多くのお客様から喜んでもらえるよう、スタッフが一丸となって頑張っていくたい。